

第6節 演劇によるまちづくり

(兵庫県豊岡市)

上関克也 (一般財団法人自治研修協会 業務執行理事)

【調査の概要】

調査日 2024年10月30日(水)

調査場所 豊岡市市民プラザ

調査先 豊岡市観光文化部観光政策課 主幹 宮垣泰和氏

豊岡市民プラザ館長・NPO法人コミュニティーアートセンター

プラッツ代表理事 岩崎孔二氏

調査者 上関克也、櫻田順一 (一般財団法人自治研修協会事務局長)

【豊岡市の概要】

豊岡市(とよおかし)は、2005(平成17)年4月1日、兵庫県の北東部に位置する1市5町(豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町)が合併してできたまちである。



市域の約8割を森林が占め、北は日本海、東は京都府に接し、中央部には母なる川・円山川が悠々と流れている。海岸部は山陰海岸国立公園、山岳部は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定され、多彩な四季を織りなす自然環境に恵まれている。

2005(平成17)年9月には、国指定の特別天然記念物・コウノトリが自然放鳥され、人里で野生復帰を目指す世界的にも例がない壮大な取組みが始まった。

産業は、農林水産業、観光業などが盛んで、特に観光業では、全国的に有名な城崎温泉をはじめ、西日本屈指の神鍋スキー場、但馬の小京都・出石城下町などを有し、年間の観光客は420万人以上にのぼっている。また、地場産業としては、全国の4大産地の一つであるかばん、出石焼などの生産が行われている。

<豊岡市の基礎データ>

面積 697.55 km²

2020(令和2)年国勢調査人口 77,489人

2022(令和4)年度決算(普通会計)歳出総額 51,212百万円

2022(令和4)年度財政力指数 0.38

(市HP等より)



図1 豊岡駅前

1. 豊岡演劇祭について

豊岡市の目指すまちの将来像である「小さな世界都市・Local&Global City」の実現にむけて、“深さをもった演劇のまちづくり”を推進するための1つとして「豊岡演劇祭」を開催している。

その目的は、国内外のアーティストの創造発信や交流の場をつくり、市民などが多様な文化・価値観に触れる機会を創出することで、地域振興、国際交流などへの貢献を目指すものであり、2020年（プレ大会は2019年）に第1回を開催した。

この演劇祭は、2019年から開催されてはいるものの、そこに至るまでには、多くの市民、行政による取り組みが継続して行われた結果であり、特に第1回となる2020年は、コロナ禍のもと多くの困難を乗り越えて成功裏に開催されたものの2021年の第2回大会は、9月の開催に向けて準備を進めてきたが、兵庫県に緊急事態宣言が発令されたことを受けて中止となった。翌2022年には、18,250人を、2023年には、23,647人の動員を記録した。

今や兵庫県だけではなく全国レベルでも「演劇のまち」として確立されている豊岡市は、近隣の温泉地などの観光地への波及効果も大きいものがある。また欧米豪からのインバウンド客が多い城崎温泉を抱え、行政、民間、市民、大学が連携して取り組むことで、豊岡演劇祭はアジア圏では最大級の演劇祭に成長しており、地域振興だけではなく国際交流、芸術振興にもつながっていくものである。ゼロからここまで持ってこれたこと自体が素晴らしいものであり、それを担った人物についても紹介していくが、まずは、豊岡演劇祭の概要について紹介する。

2. 豊岡演劇祭 2024

(1) 開催日 2024年9月6日（金）から23日（月・祝）まで

(2) 開催エリア 下記市町及びサテライトエリアとして宝塚市



図2 演劇祭開催エリア

(3) プログラムの構成

① 公式プログラム (図3にラインナップを示す)

・ディレクターズプログラム

フェスティバルディレクターがセレクトした公式プログラム

公式プログラム ラインナップ

プログラムタイプ	演目	上演日程	会場
ディレクターズプログラム	マームとジブシー 『Chair/IL POSTO』	9/13(金)19:00 9/14(土)19:00 9/15(日)11:00	芸術文化観光専門職大学 静思堂シアター
ディレクターズプログラム	スリービルバークス第2回野外公演 in スタジアム! 『リバーサイド名球会』	9/20(金)18:00、20:00 9/21(土)18:00、20:00 9/22(日)18:00、20:00	こうのとりのスタジアム
ディレクターズプログラム	Platz市民演劇プロジェクト 『空き家』	9/15(日)19:00 9/16(月・祝)14:00	豊岡市民プラザ
ディレクターズプログラム	KIACレジデンス・セレクション 2023→24: コーンカーン・ルーンサ ワーン 『Mali Bucha: Dance Offering』	9/13(金)18:00 9/14(土)14:00 9/15(日)14:00	城崎国際アートセンター
ディレクターズプログラム	岩下徹 (dance) × 梅津和時 (sax./cl.) 即興セッション 『みみをすます (谷川俊太郎同名詩よ り)』	【竹野】9/16(月・祝)10:30 【朝来】9/21(土)16:30 【養父】9/23(月・祝)10:30	【竹野】ワークス・さんとびあ (旧三原小 学校) 【朝来】あさご芸術の森美術館 【養父】ショッピングタウンベア
ディレクターズプログラム	たじま児童劇団 『転校生』	9/6(金)19:00 9/7(土)13:00、17:00 9/8(日)11:30、15:30	江原河畔劇場
ディレクターズプログラム	青年団 『銀河鉄道の夜』舞台手話通訳付き公演	9/14(土)11:30、18:30 9/15(日)18:30	江原河畔劇場
ディレクターズプログラム	読売テレビプロデュース 『ムーンライト・セレナーデを聴きなが ら』	9/14(土)13:00、16:00 9/15(日)11:30、16:00	出石永楽館
ディレクターズプログラム	堀川 炎 『野火』	9/22(日)14:00 9/23(月・祝)11:00	出石永楽館
ディレクターズプログラム	んまつー波斯 × Unlock Dancing Plaza 『キリギリスとアリ』	9/23(月・祝)14:00	やぶ市民交流広場
フェスティバルプロデュース	ダンスカンパニー Mi-Mi-Bi 『島々ノ舞々々』(しまじまのまいまい まい)	9/21(土)14:00 9/22(日)14:00	豊岡市民プラザ
フェスティバルプロデュース	烏丸ストロークロック×但東の人々 『但東さいさい』	9/15(日)17:00 9/16(月・祝)11:00	畑山 日出神社
フェスティバルプロデュース	to R mansion 『へんてこうじょう』	【宝塚】9/7(土)14:00 【香美】9/15(日)14:00	【宝塚】宝塚ソリオホール 【香美】香住区中央公民館
フェスティバルプロデュース	小菅紘史 × 中川裕貴 『山月記』	【宝塚】9/7(土)19:00 【香美】9/8(日)18:30	【宝塚】宝塚市 武庫川河川敷 (大劇場 前) 【香美】木の殿堂芝生広場
フェスティバルプロデュース	うさぎストライブ 『ゴールデンバット』	9/21(土)19:00	あさご芸術の森美術館
フェスティバルプロデュース	城崎発演劇列車vol.4 JR西日本観光列車「うみやまむすび」×芸 術文化観光専門職大学 『うみやまむすび夢十夜 こんなゆめを みた!!の旅』リターンズ ～TAJIMA発☆奇々怪々方面、ヘンデコ!? 夢うつ行き。ぶらりとご乗車ください ませ～	9/12(木)13:30 9/13(金)13:30 9/18(水)13:30 9/19(木)13:30 9/20(金)13:30	JR山陰本線 (城崎温泉駅、佐津駅、香住 駅、餘部駅)

図3 公式プログラムラインナップ

・フェスティバルプロデュース

演劇祭がプロデュースするプログラム 地域、食、交通などとアートを

掛け合わせ、舞台芸術の可能性をより拡張していく
公式プログラムの他に次のプログラムが行われた。

② フリンジプログラム

応募から選ばれて行われるプログラムで “セレクション”、“ショーケース”、“ストリート”として 51 団体/54 プログラムが参加

③ 関連プログラム

公式プログラムに関連するプログラムでトーク企画やワークショップを開催

④ 寄りんせえプログラム

会期中地域で活動する団体のイベントやワークショップ情報を紹介

4 回目の開催となる 2024 年は 18 日間の会期に延べ約 3 万 6 千人という多くの人々が参加来場し（2023 年は延べ約 2 万 4 千人）、演劇祭の統括役であるフェスティバルディレクターの平田オリザ氏は「満席の演目も多く、全体の動員率は格段に上がった」とし、人口減少などの課題に触れ、「アートが（地域おこしで）できることは限られているが、小さな明かりをともし続けたい」と述べている。

このように、豊岡演劇祭 2024 は成功裏に終了したが、ここに至るまでには、多くの困難を乗り越えながらまちづくりに取り組んできており、その成果が演劇祭として結実しているともいえる。

次に、豊岡市としてそれらの取り組みの核となる「小さな世界都市」に関する取り組みについて紹介する。

3. 小さな世界都市の実現

（1）豊岡市の掲げる小さな世界都市

大都市と地方の資本力は歴然で、大きさ、高さ、速さを競っていても、勝ち目はない。大都市との格差に汲々とするのではなく、「人口規模は小さくても、世界の人々に尊敬され、尊重されるまち」として、世界を絶えず意識して、世界に通用する「ローカル」を磨き上げて輝くことを豊岡市は目指すとしており、この実現に向け「コウノトリも住めるまちを創る」「受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐというまちづくりを進める」「深さを持った演劇のまちを創る」「ジェンダーギャップを解消する」の 4 つを掲げて取り組んできたところである。

（2）深さをもった演劇のまちを創造する

なぜ若者たちは戻ってこないのか？との問題提起に対し、豊岡は貧しくてつ

まらない。という強烈なイメージがあり、地方暮らしは刺激が少なく、地方は保守的でチャレンジもできず、閉鎖的でチャンスも出番もないとの意見があり、このような豊岡で暮らす価値の否定を豊岡で暮らす価値のアップデートを行う必要があり、「小さな世界都市」の実現の施策の中で、人口規模は小さくてもローカルであること、地域固有であることを通じて世界の人々から尊敬され、尊重されるまち、世界に突き抜けるための施策として『深さをもった演劇のまち』の創造、文化の自己決定能力が推進された。

これは、芸術文化による地方創生であり、文化の自己決定能力、すなわち自分たちで考え決定し、多様性のある地域を自分たちでつくるものである。

『深さをもった演劇のまち』の創造の例として次のようなものがある。

・ 出石永楽館

現存する近畿最古の芝居小屋（1901年）

2008年に復活

2008年柿落し以来、片岡愛之助氏が座頭で永楽館歌舞伎を公演



図4 出石永楽館

・ 城崎国際アートセンター 2014年オープン

パフォーマンスアーツに特化した日本最大規模の滞在型創作施設

2023年度レジデンス応募数：15カ国 51件 → 採択：12件



図5 城崎国際アートセンター

© 西山円茄

- ・ 劇団「青年団」江原河畔劇場 2020年3月オープン
昭和10年に建設された建物。劇団「青年団」の劇場へと生まれ変わった。
- ・ 豊岡演劇祭 2019年から
前述
- ・ 芸術文化観光専門職大学（兵庫県立大学法人） 2021年4月開学
 - <基本情報>
 - ・ 学部学科 芸術文化・観光学部
芸術文化・観光学科
 - ・ 入学定員 80人
 - ・ 収容定員 320人
 - <教育の特徴>
 - ・ 芸術文化と観光の二つの視点から地域活性化を学ぶ日本初の大学
 - ・ 国公立初！演劇・ダンスの実技が本格的に学べる大学
 - ・ 新たな観光を創り出し、地域づくりを担う人材を育成する大学
 - ・ 1学部1学科80人の徹底した少人数教育
 - ・ 授業の1/3を実習に充てた実践的なプログラム
 - ・ 初年次教育と初年次全寮制

など地域をあげて多くの取り組みがなされている。



図6 学舎の外観

4. 豊岡市における演劇活動取り組みの経緯

(1) 生涯学習施設豊岡市民プラザの事業展開

1984年からの構想であった豊岡駅前再開発は、1997年に完成したが、テナントが計画通りには立地せず空きスペースが発生していたことから、豊岡市は財政支援として床の買収を行い、7階に子育て支援・市民の文化活動・地域文化創造の拠点として豊岡市民プラザを2004年4月にオープンした。客席250席の多目的ホール「ほっとステージ」に加えて、会議室やサークル活動の場として使える4つの市民活動室と3つの練習室、さらに天候に関わらず未就学児が遊べるふれあい広場や、だれでも自由に利用できる交流サロンがある。

オープン当初は豊岡市の施設であったため市の職員が管理・運営にあっていたが、「市民のための施設は市民自らの手で運営するのが望ましい」という考えに基づいて、2013年からは新たに設立されたNPO法人「コミュニティアートセンタープラッツ」が指定管理者として運営している。

(2) 豊岡市民プラザの機能

豊岡市民プラザの機能は、3つあり、一つは「貸館業務」、「場所の提供」である。

まず、貸館業務としての「ほっとステージ」では、さまざまなイベントが行われており、コンサートや、ピアノ・バレエなどの発表会、講演会のほかにもここで結婚式をされた方もいるとのことである。なお、コンサートホールとしては市内の市民会館もあるが、市民会館は収容能力が1000人を超える大きなホールで

あり、一方でここは 250 人規模で、商業的コンサートには向かないが、市民の方に気軽に使っていただける（「場所の提供」としての）施設となっているとのことである。

二つ目の重要な事業は「自主事業」である。

演劇を中心に、いろいろな形で市民と共に作り上げる自主事業を行っており、最も代表的なものは、「市民演劇プロジェクト」で、プロの演出家や役者さんと市民が一緒になって作品を作り上げていくプロジェクトである。市民演劇プロジェクトは公演の都度メンバーを募集するかたちなのであるが、それとは別に通年で活動する『演劇 FACTORY』という劇団も結成しているとのことである。また、自主事業は演劇だけでなく地元のアマチュア落語家たちが芸を披露する「プラザ寄席 ふれ愛亭」（年 2 回開催）、高校生バンドやダンサーが活躍する「U18 MUSIC FESTIVAL」（年 1 回開催）、月に 1 度入場無料で開催される「サロンコンサート」など、幅広いイベントが開催されている。

三つ目の機能は「地域活動の支援」である。

市民活動として何かを始めようという方が、どうやって NPO 法人を立ち上げたら良いか、立ち上げた NPO をどう運営していくかなどの相談に乗ったり、関係するセミナーを開催したりしている。また、NPO と NPO、行政と NPO などのつながりをコーディネートする「中間支援活動」にも取り組んでいる。なお、事務室自体もワークステーションとして、パソコンやコピー機、ロッカー、印刷機などが使えるとのことである。

このような豊岡市民プラザの取り組みにより、市内に多くの芸術関係の組織団体や自主的なさまざまな取り組みが行われるようになったものである。

（3）城崎国際アートセンターの展開

舞台芸術を中心とする滞在型創作拠点である城崎国際アートセンターが、2014 年にオープンした。この建物は、1980 年代に兵庫県が設置した城崎大会議館を改修したものであり、豊岡市の温泉街（城崎）に位置する舞台芸術を中心としたアーティスト・イン・レジデンス（滞在型の作品制作）の拠点となっている。

当センターは、ホール、スタジオ、レジデンス（宿泊施設）で構成され、舞台芸術の発表の場としてだけではなく、アーティストが城崎のまちに暮らすように長期滞在できるアートの拠点として、2015 年 4 月から（2021 年 3 月まで）劇作家・演出家の平田オリザ氏が芸術監督を務めている。

城崎国際アートセンターの運営については、「コミュニティアートセンタープラッツ」という、市民プラザでホール運営の経験を積んできた人たちが中心となって 2011 年に設立した NPO 法人がテクニカルサポートを行っている。

5. 演劇のまちの推進者

以上のように、長年にわたり豊岡市民プラザを中心に多くの市民の参加を得て演劇活動が活発に行われ、その集大成が豊岡演劇祭であるが、この活動に当初からかかわり、現在も豊岡市民プラザ館長として、中心的な役割を果たしている岩崎孔二氏から市の取り組みと各種団体等の関わりについてお話を伺った。

氏の功績やその取り組みは、各方面で取りあげられているところであるが、まず、氏は、市職員として都市計画事業に従事しており、前述の「地域文化活動・子育て支援の拠点づくり」をテーマに掲げた市民プラザの創設に関わった。

天井の高い空きスペースの空間は劇場に適していると考え誰もが利用できる前述の「ほっとステージ」が設置された。収容人数 250 人のホールでは自主事業として市民劇団「演劇 FACTORY」や小中高生対象の「劇の学校」、実践的な舞台づくりを学ぶ「アートスクール」、さらに、近年では大人向けの戯曲講座「大人の演劇学校」を開講するなど市民の創作活動を支援する豊富なプログラムを展開している。

このような地道な活動の展開が、豊岡演劇祭につながっていったのではないだろうか。氏は組織の一員あるいはトップとして、事業に参画するとともに、各種団体を結びつけるコーディネーターとしての役割を果たしてきたともいえる。今後の一層の活躍を期待したい。